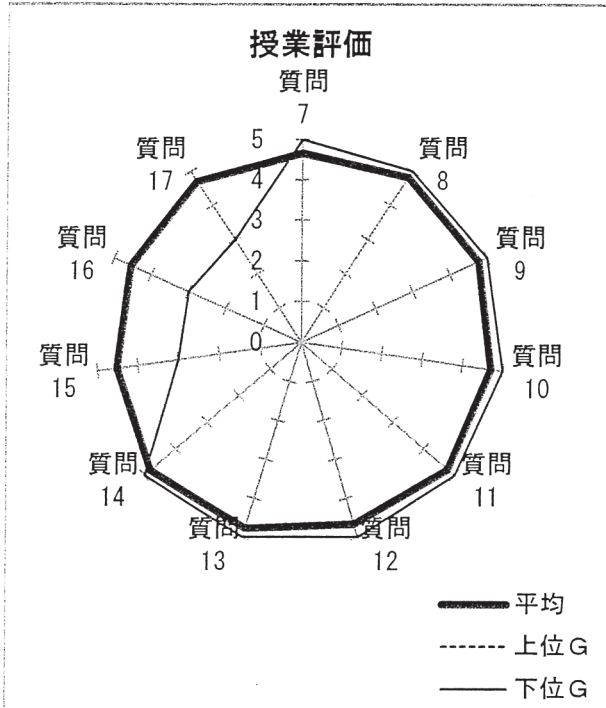


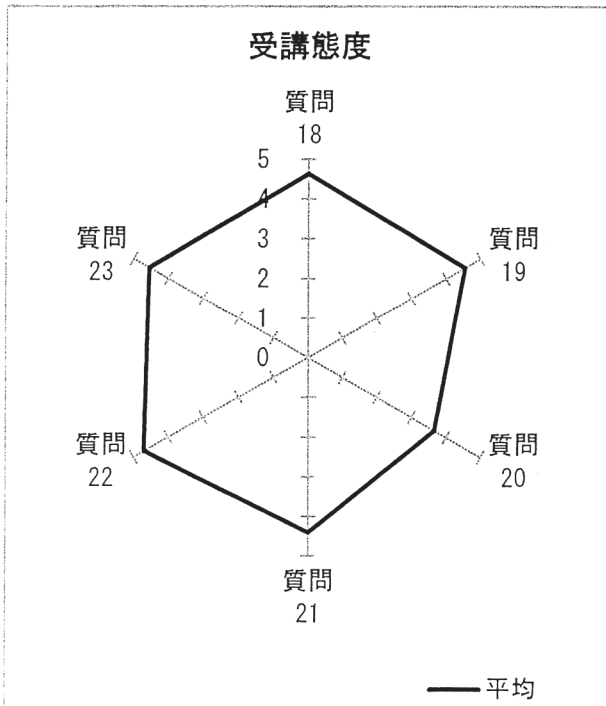
科目コード 200 (2017年度 前期)

文学部 現代日本文化学科 石井 奈緒 文化研究Ⅲ



質問項目	平均	上位G	下位G
質問 7	4.7	4.7	5.0
質問 8	4.8	4.8	5.0
質問 9	4.8	4.8	5.0
質問10	4.7	4.7	5.0
質問11	4.8	4.8	5.0
質問12	4.7	4.7	5.0
質問13	4.8	4.8	5.0
質問14	4.8	4.8	5.0
質問15	4.5	4.6	3.0
質問16	4.6	4.6	3.0
質問17	4.7	4.8	3.0
平均	4.7	4.7	4.5

- 質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
- 質問 8 : 教員の授業時間遵守
- 質問 9 : 教員の話し方
- 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
- 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
- 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮 (私語の注意等)
- 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
- 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
- 質問15 : (自分は) 授業を理解できたと思うか
- 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
- 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.6
質問19	4.6
質問20	3.7
質問21	4.4
質問22	4.7
質問23	4.6
平均	4.4

- 質問18 : (自分は) 授業に真面目に取り組んだと思うか
- 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
- 質問20 : 欠席回数 (0回→5ポイント、1回→4、2回→3…)
- 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
- 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
- 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学 部 名	学 科 名	担当者名	科 目 名	履修者数
文学部	現代日本文化学科	石井 奈緒	文化研究Ⅲ	31名

2017年度前期授業評価アンケート集計結果： 教員による分析・評価と2018年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

この科目は開講年次が3年生であるため受講者も4年生が13名、3年生が18名であった。そのうち留学生は4年生10名、3年生2名であった。また、この科目の特徴は、文化研究Ⅲのローマ数字Ⅲに表れているように、文化研究Ⅰと文化研究Ⅱを履修したのちに受講することが理想的な科目で、私の担当科目では最も難易度が高い科目である。テキストは文化人類学の一般書と研究書の両方の性質を併せ持つもので、第一部は一般向けの雑誌に書かれたエッセイ、第二部は研究論文であった。

まず、オリエンテーションで、このテキストの学術的な意味を説明したうえで、第二部の論文を読みこなせれば、他のジャンルの論文も同じように読めるようになることを伝えた。テキストの目次を参考にして、担当したい章を受講者が決め、各々がレジユメをあらかじめ用意して発表する形式をとった。現代日本文化学科では卒業制作・論文が必修であるため、卒論の作成に際し、一般的に言って論文とはどのような構成になっているのか、それをどのように読みこなせばよいのか、そして、その内容を同じ受講者にわかりやすく説明するにはどのようにすればよいか、を学ぶ場であった。

集計結果で目を引くのは、授業評価に関して上位グループと下位グループにポイントの大きな差がある点である。該当する質問項目は3つ、Q15、Q16、Q17であった。Q15は、自分は授業を理解できたと思うか？で、上位グループが4.6であるのに対し下位グループは3、Q16は、興味・関心・意欲をひきだしたか？は上位グループ4.6に対し下位グループは3、Q17は、新しい知識・技術・理論等の習得への有用性は、上位グループ4.8に対し、下位グループ3であった。

では、受講態度下位グループの受講生とはいったいどのような学生であったのか？ 受講態度のなかで出席回数のポイントが最も低い点に示されている通り、欠席回数が多い受講生ほど授業が理解できなかったと言える。その他の受講態度に関しては、レポート・課題等に積極的に取り組んだかどうか4.7、授業に真面目に取り組んだかどうか4.6、授業内容や到達目標を理解して受講したか4.6と高い数字に示されるように、実際を受講生の受講態度については、中には準備が不十分で発表当日にレジユメが配布できなかった学生が数名いたものの（翌週に提出・配布）、どの学生も発表自体はきちんとこなし、他の受講者に大きな迷惑をかけることはなかった。また、Q22で言及されているレポートに関しても、実際に提出されたレポートの水準は高く、難しい論文を読みこなし、そのうえで自分が調べたことを書き加えたりして、自分の意見をはっきりと明示するという、意欲的なものが多々存在した。全体として、たとえ文化研究Ⅰや文化研究Ⅱを積み重ねて履修する機会に恵まれなかった者でも、この文化研究Ⅲについての取り組みはまじめで一生懸命、他の受講者の発表から良い点を学び取り、それを自分の発表に生かし、工夫できていた者が多い。

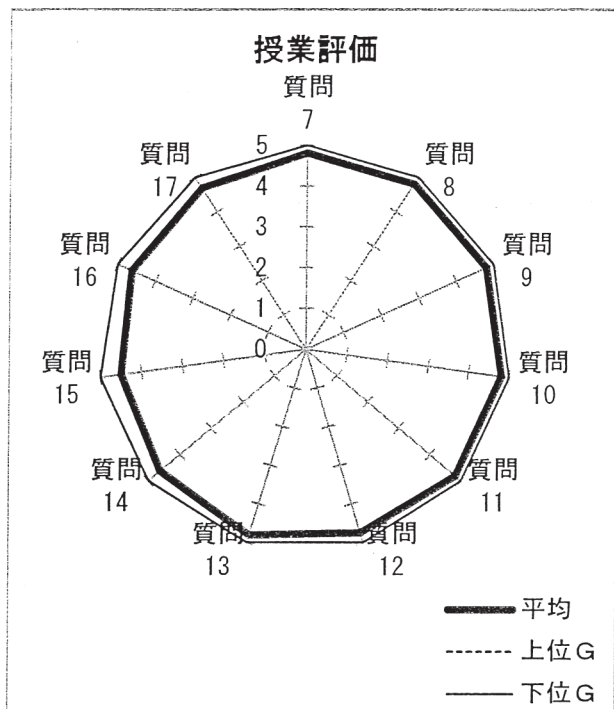
II. 2018年度に向けての取り組み

2018年度担当予定科目名： 文化研究Ⅲ

この科目自体、難易度が高いにもかかわらず、途中でこの科目が嫌になって放棄した学生は皆無であった。このテキストは半期ですべて読み終えようとする、どうしても、その章の意図や全体における位置づけ、補足説明などが十分にできない側面があるため、今後はこの点に配慮したい。適宜これから取り組む章の意味をあらかじめ十分に説明し、事前に知っておくと内容が理解しやすくなる情報を積極的に提供し、準備する段階で、興味や関心をもって取り組み、受講者の意欲をかりたてるような指導を行っていききたい。

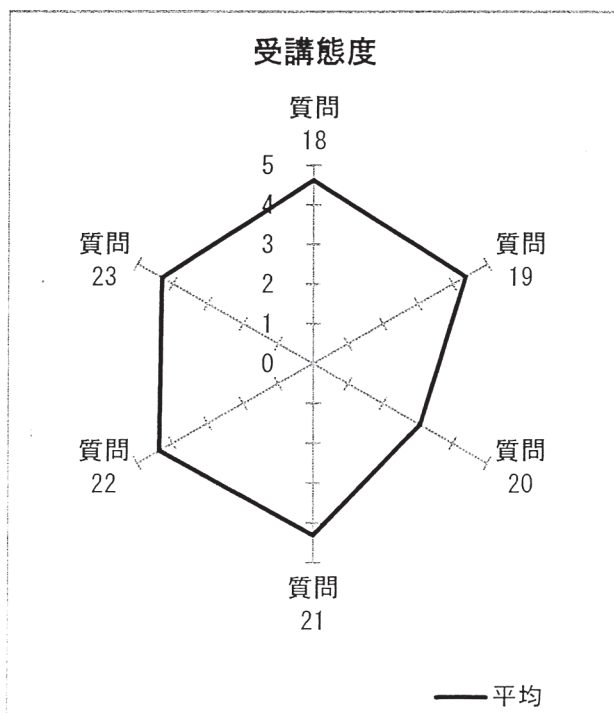
科目コード 205 (2017年度 前期)

文学部 現代日本文化学科 黒木 香 古典文学講義 I



質問項目	平均	上位G	下位G
質問 7	4.8	4.8	5.0
質問 8	4.8	4.8	5.0
質問 9	4.8	4.8	5.0
質問10	4.8	4.8	5.0
質問11	4.8	4.8	5.0
質問12	4.8	4.7	5.0
質問13	4.8	4.8	5.0
質問14	4.6	4.6	5.0
質問15	4.5	4.4	5.0
質問16	4.6	4.6	5.0
質問17	4.7	4.6	5.0
平均	4.7	4.7	5.0

質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
 質問 8 : 教員の授業時間遵守
 質問 9 : 教員の話し方
 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮 (私語の注意等)
 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
 質問15 : (自分は) 授業を理解できたと思うか
 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.6
質問19	4.4
質問20	3.1
質問21	4.3
質問22	4.4
質問23	4.3
平均	4.2

質問18 : (自分は) 授業に真面目に取り組んだと思うか
 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
 質問20 : 欠席回数 (0回→5ポイント、1回→4、2回→3…)
 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学 部 名	学 科 名	担当者名	科 目 名	履修者数
文学部	現代日本文化学科	黒木 香	古典文学講義 I	20名

2017年度前期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と2018年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

古典文学の基本的知識が少なくなっており、また留学生もいるため前週に原文（注釈及び現代語訳付）を印刷配布し、予め作品の原文を読んできてもらい、作品の内容に入りこみやすいようにしている。ただ、古典文学は原文の訳がわかることが目標ではなく、歴史や文化などへの理解も必要である。質問15授業理解が上位グループではやや低いのは作品全体を読むところまでは到達できず、場面の読みに留まったためかもしれない。

作品をまとめて読むたびに、課題を出し、『蜻蛉日記』などの作品を読む中で、主人公や内容を各自の視点で見つめてもらう機会を持った。

全体的に受講態度に差はないが、出欠状況には差があり、欠席や遅刻が多い学生もいた。そのため質問20欠席回数が3.1と低くなっている。受講生が20名と多くない中で、2、3名の受講生の欠席回数の多さが全体を低くしている。

今期は途中から体調を崩し、教卓から全く動けず、受講生にはいろいろな点で迷惑をかけたことをあやまりたいが、休講にすることなく授業を終えられたのは幸いだった。

II. 2018年度に向けての取り組み

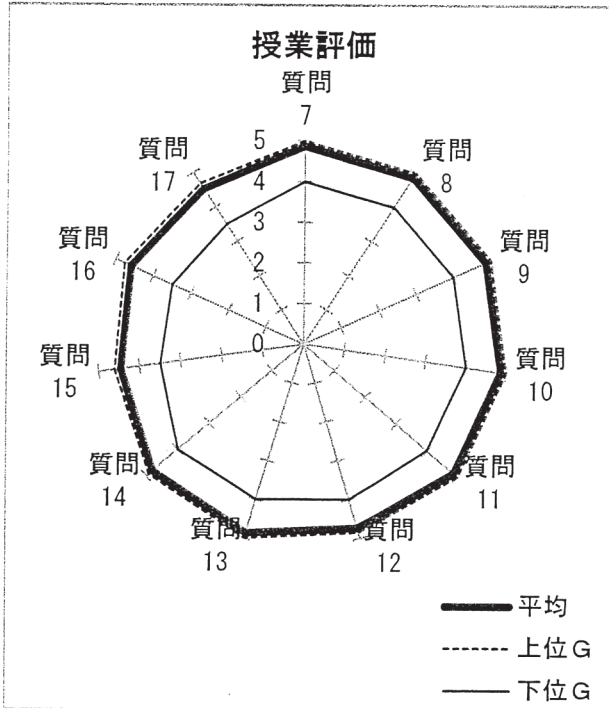
2018年度担当予定科目名：古典文学講義 I

DVDなど視覚的な教材を探しているが、あまりよいものが入手できないのが現状である。画像で紹介するのが効果的か、実物を見せるのが効果的か毎回迷うが、まずは異なる時代に少しでも親しみを感じてほしいと考えるので、他では見にくい品を手にとって、作品への接近をさらにはかりたい。

また、プリントを事前に配布しておいても、内容が理解できているか否かははかりにくい。ワークシートにより、場面理解の流れを作り、毎回の話の内容を確認できるようにしたい。

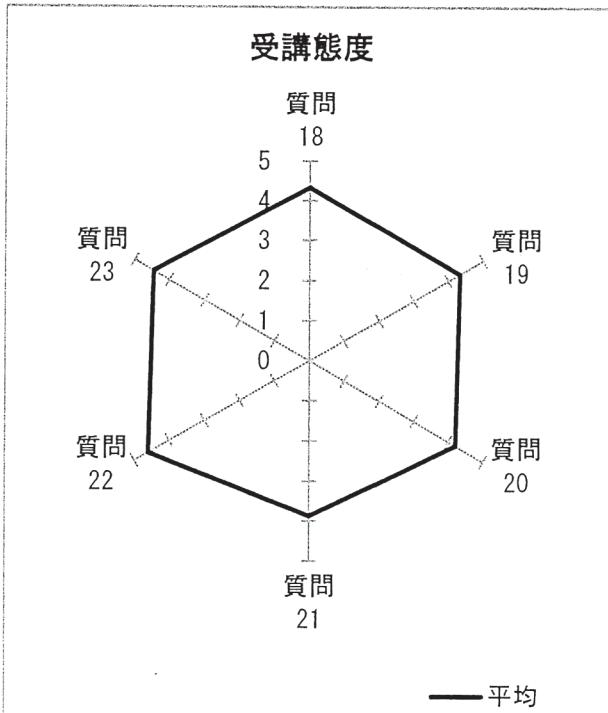
科目コード 210 (2017年度 前期)

文学部 現代日本文化学科 古賀 弥生 都市デザイン論



質問項目	平均	上位G	下位G
質問 7	4.9	5.0	4.0
質問 8	4.9	5.0	4.0
質問 9	4.9	5.0	4.0
質問10	4.9	5.0	4.0
質問11	4.9	5.0	4.0
質問12	4.7	4.8	4.0
質問13	4.9	5.0	4.0
質問14	4.8	4.9	4.0
質問15	4.5	4.6	3.5
質問16	4.6	4.8	3.5
質問17	4.5	4.7	3.5
平均	4.8	4.9	3.9

質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
 質問 8 : 教員の授業時間遵守
 質問 9 : 教員の話し方
 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮 (私語の注意等)
 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
 質問15 : (自分は) 授業を理解できたと思うか
 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.3
質問19	4.3
質問20	4.2
質問21	3.9
質問22	4.6
質問23	4.5
平均	4.3

質問18 : (自分は) 授業に真面目に取り組んだと思うか
 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
 質問20 : 欠席回数 (0回→5ポイント、1回→4、2回→3...)
 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学 部 名	学 科 名	担当者名	科 目 名	履修者数
文学部	現代日本文化学科	古賀 弥生	都市デザイン論	16人

2017年度前期授業評価アンケート集計結果： 教員による分析・評価と2018年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

この授業では、実際の街の様子を観察するフィールドワークやワークショップを交え、都市景観を切り口としてまちづくりに関わる意識を醸成することに主眼を置いた。

学生の反応はおおむね良好であったと感じているが、アンケート結果によると「授業評価」の質問15～17の理解、関心、有用性がやや低い。教材や各回の授業内容の関連性に改善の余地があったかもしれない。

また、「受講態度」の質問21の点数が他と比べて低いが、授業中のワークショップ等への参加に意識を集中させたため、授業時間外の課題が少なめであったことが関係しているように思われる。

II. 2018年度に向けての取り組み

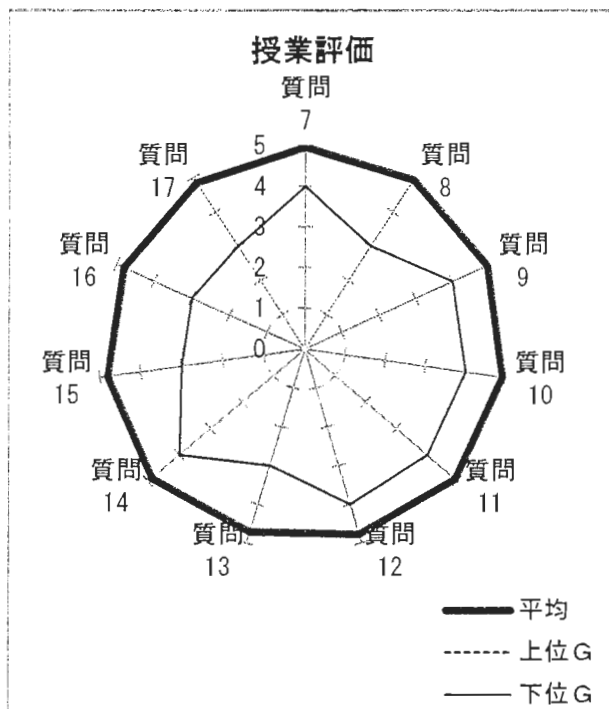
2018年度担当予定科目名： _____

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

都市デザインに関する理論書の授業内での活用や、参考文献としての紹介を従来以上に行うことが、評価がやや低調であった点への対応になる可能性はあると思われる。

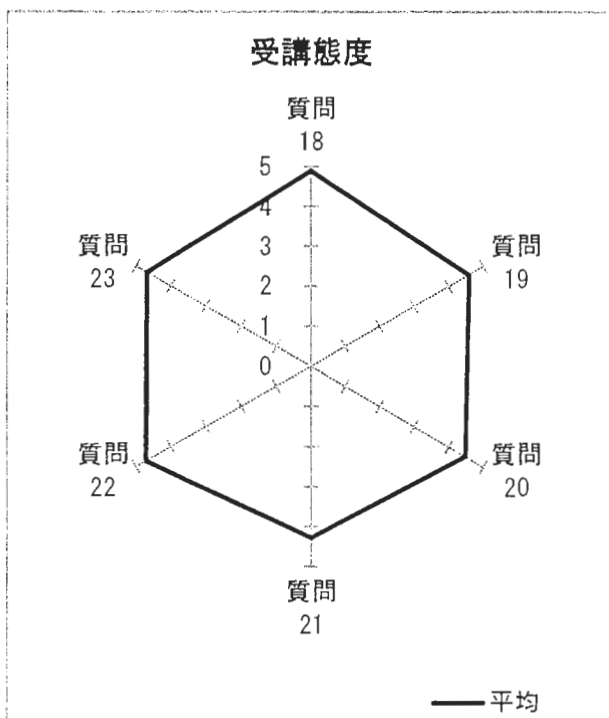
科目コード 211 (2017年度 前期)

文学部 現代日本文化学科 古賀 弥生 現代・日本・文化 I



質問項目	平均	上位G	下位G
質問 7	5.0	5.0	4.0
質問 8	4.9	5.0	3.0
質問 9	4.9	5.0	4.0
質問10	4.9	4.9	4.0
質問11	4.9	4.9	4.0
質問12	4.8	4.8	4.0
質問13	4.7	4.8	3.0
質問14	4.9	4.9	4.0
質問15	4.8	4.9	3.0
質問16	4.8	4.9	3.0
質問17	4.8	4.9	3.0
平均	4.9	4.9	3.5

- 質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
- 質問 8 : 教員の授業時間遵守
- 質問 9 : 教員の話し方
- 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
- 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
- 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮 (私語の注意等)
- 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
- 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
- 質問15 : (自分は) 授業を理解できたと思うか
- 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
- 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.9
質問19	4.6
質問20	4.5
質問21	4.3
質問22	4.7
質問23	4.7
平均	4.6

- 質問18 : (自分は) 授業に真面目に取り組んだと思うか
- 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
- 質問20 : 欠席回数 (0回→5ポイント、1回→4、2回→3…)
- 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
- 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
- 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学 部 名	学 科 名	担当者名	科 目 名	履修者数
文学部	現代日本文化学科	古賀 弥生	現代・日本・文化 I	37 人

2017 年度前期授業評価アンケート集計結果： 教員による分析・評価と 2018 年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

この授業は留学生が日本人学生よりも多く受講、しかも日本語力がまだ十分でない留学生が多いという状況に対応することが難しかった。

話すスピードをかなり落とし、レジュメはすべて振り仮名をつけたうえで前の週に配布し、予習が可能なように配慮したが、それでも内容の理解が難しかった留学生も一部にはいたものと感じている。

また、留学生が多い環境を活用し、日本人学生と混成のグループによるディスカッションをほぼ毎回行った。このことは、多様な考え方があることを理解するよい機会であったと思うが、おとなしい学生（特に日本語があまりできないことから発信を控える留学生）には、やや厳しかったかもしれない。

II. 2018 年度に向けての取り組み

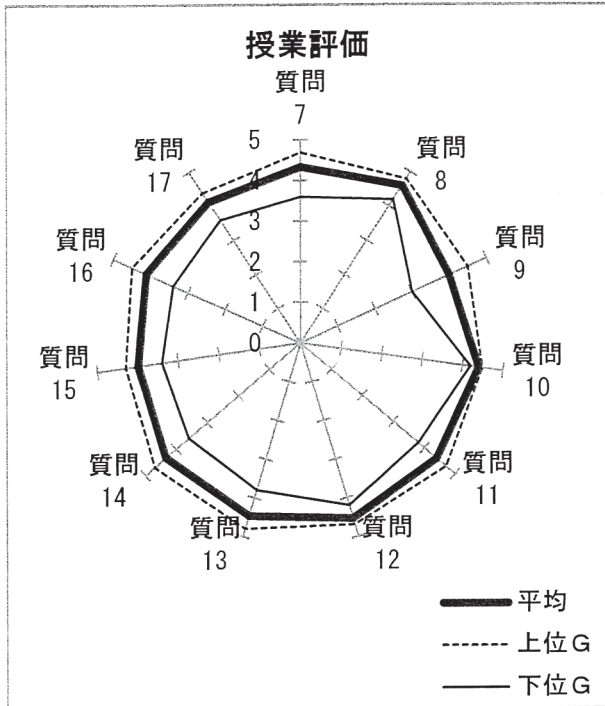
2018 年度担当予定科目名： _____

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

留学生が多く受講する状況は今後も変わらないと思われる。本来は 1 年次対象の導入科目、そして文化マネジメント系の入門科目という性格があり、留学生対応との両立は困難な面がある。授業に盛り込む要素を整理し、シンプルに構成したほうがよいのかもしれないと感じている。

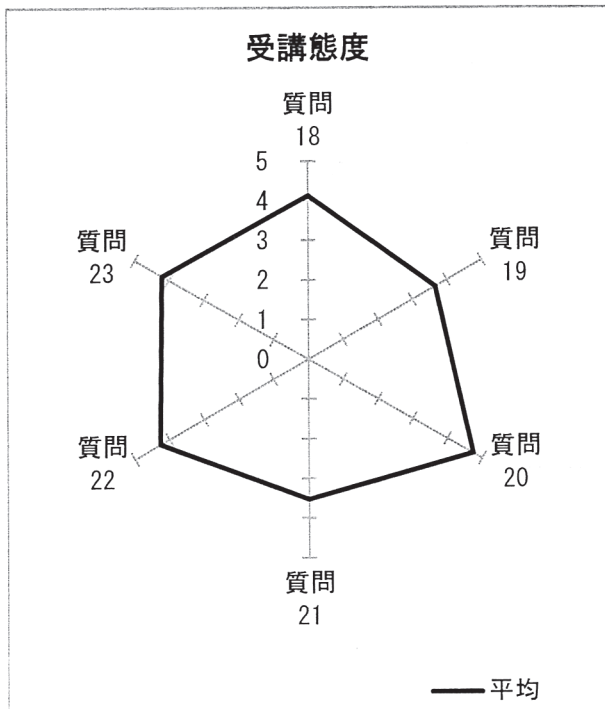
科目コード 215 (2017年度 前期)

文学部 現代日本文化学科 高橋 敬一 日本語概論



質問項目	平均	上位G	下位G
質問 7	4.3	4.7	3.6
質問 8	4.6	4.8	4.2
質問 9	4.0	4.5	3.0
質問10	4.4	4.5	4.2
質問11	4.4	4.7	3.8
質問12	4.5	4.7	4.2
質問13	4.5	4.8	3.8
質問14	4.3	4.7	3.6
質問15	4.0	4.3	3.4
質問16	4.1	4.5	3.4
質問17	4.1	4.4	3.6
平均	4.3	4.6	3.7

- 質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
- 質問 8 : 教員の授業時間遵守
- 質問 9 : 教員の話し方
- 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
- 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
- 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮 (私語の注意等)
- 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
- 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
- 質問15 : (自分は) 授業を理解できたと思うか
- 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
- 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.1
質問19	3.7
質問20	4.7
質問21	3.5
質問22	4.3
質問23	4.2
平均	4.1

- 質問18 : (自分は) 授業に真面目に取り組んだと思うか
- 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
- 質問20 : 欠席回数 (0回→5ポイント、1回→4、2回→3…)
- 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
- 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
- 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学 部 名	学 科 名	担当 者 名	科 目 名	履 修 者 数
文学	現代日本文化	高橋敬一	日本語概論	36

I. 分析と評価

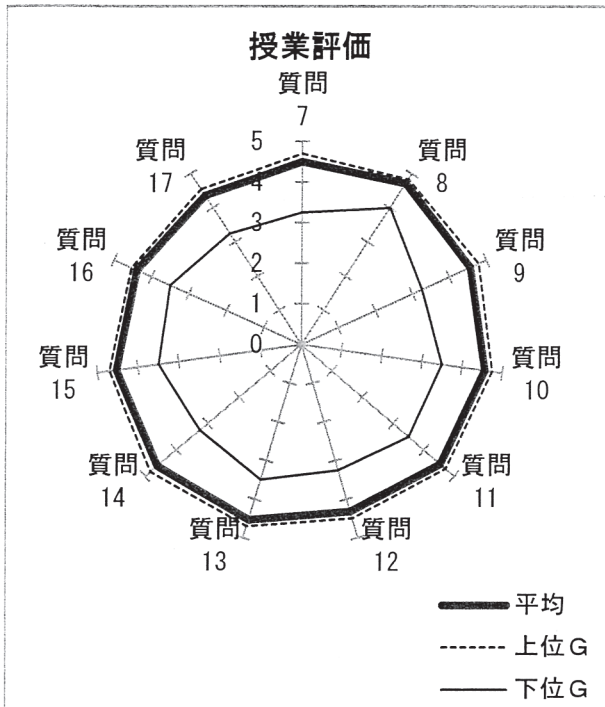
一年生対象のクラスである。受講者の内訳は、日本人学生36名（現日10名、英語26名）。

授業評価をみると、すべての質問項目の平均が4.0～4.6であることは、今後の自信につながる。特に、[質問8]、[質問10]、[質問11]、[質問12]、[質問13]の「教員の授業時間厳守」、「教材・機器・板書等の効果的な使用」、「教員の説明のわかり易さ」、「教員の授業環境に対する配慮（私語の注意等）」、「質問機会の確保と質問への適切な対応」の評価の平均が4.4以上と高かったことは、今後の自信につながる。ただし、下位Gの中の、[質問9]の「教員の話し方」に対する評価3.0だけが他の項目の平均と比べるとかなり低いので、今後とも反省し工夫しなければならないと考えている。

受講態度の中では、[質問21]の「受業の予習・復習をおこなったか」の自己評価（3.5）が他の項目の平均とくらべるとやや低いことについては、今後とも反省し工夫しなければならないと考えている。

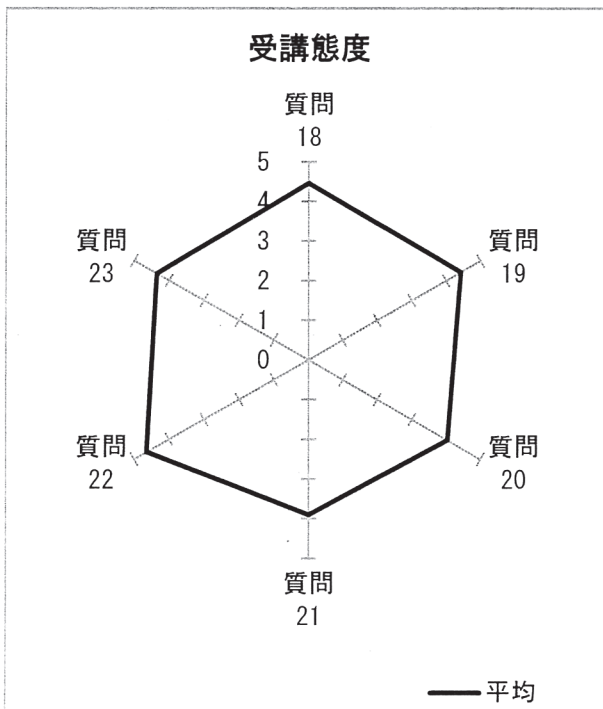
科目コード 216 (2017年度 前期)

文学部 現代日本文化学科 高橋 敬一 日本語研究Ⅱ



質問項目	平均	上位G	下位G
質問 7	4.5	4.7	3.3
質問 8	4.7	4.8	4.0
質問 9	4.6	4.8	3.3
質問10	4.6	4.8	3.5
質問11	4.5	4.7	3.5
質問12	4.3	4.5	3.3
質問13	4.5	4.7	3.5
質問14	4.6	4.8	3.3
質問15	4.5	4.7	3.5
質問16	4.4	4.5	3.5
質問17	4.4	4.5	3.3
平均	4.5	4.7	3.4

- 質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
- 質問 8 : 教員の授業時間遵守
- 質問 9 : 教員の話し方
- 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
- 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
- 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮(私語の注意等)
- 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
- 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
- 質問15 : (自分は) 授業を理解できたと思うか
- 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
- 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.5
質問19	4.4
質問20	4.0
質問21	3.9
質問22	4.6
質問23	4.4
平均	4.3

- 質問18 : (自分は) 授業に真面目に取り組んだと思うか
- 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
- 質問20 : 欠席回数(0回→5ポイント、1回→4、2回→3…)
- 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
- 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
- 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学 部 名	学 科 名	担当者名	科 目 名	履修者数
文学	現代日本文化	高橋敬一	日本語研究Ⅱ	36

I. 分析と評価

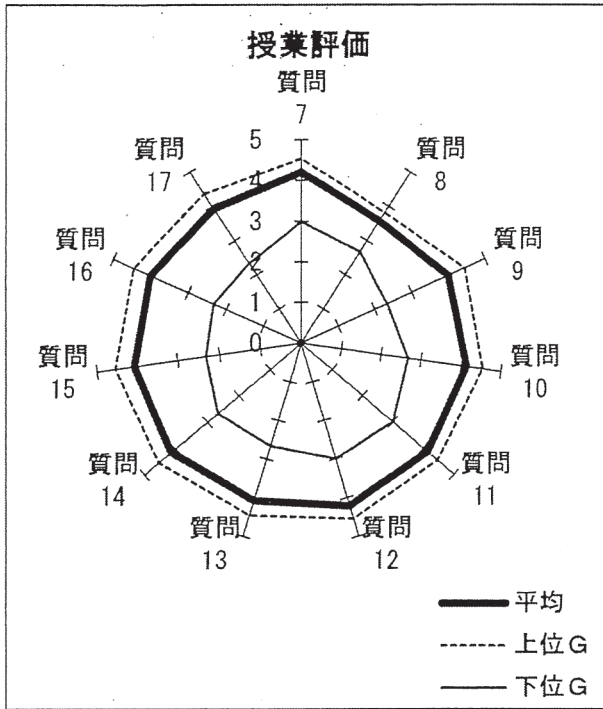
三年生対象の科目である。受講者の内訳は日本人学生19名、留学生17名である。

授業評価をみると、[質問7]～[質問17]のすべての項目にわたって、平均が4.4以上であったことは、今後の自信につながる。ただし、上位Gの最高ポイント(4.8)と下位Gの最低ポイント(3.3)の差が1.5と開きが大きい点については、今後の課題としなければならない。

受講態度の中では、[質問21]の「授業の予習・復習をおこなったか」の自己評価が平均3.9とやや低いので、今後とも反省し工夫しなければならないと考えている。

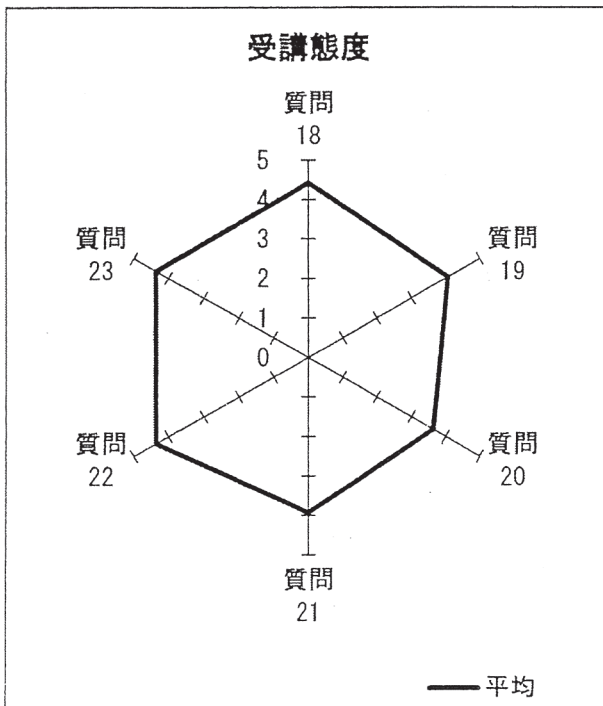
科目コード 220 (2017年度 前期)

文学部 現代日本文学学科 常吉 幸子 日本文学概論



質問項目	平均	上位G	下位G
質問 7	4.2	4.5	3.0
質問 8	3.6	3.8	2.7
質問 9	4.0	4.5	2.3
質問10	4.1	4.5	2.7
質問11	4.1	4.5	3.0
質問12	4.2	4.5	3.0
質問13	4.1	4.5	2.7
質問14	4.1	4.5	2.7
質問15	4.1	4.5	2.3
質問16	4.0	4.5	2.3
質問17	3.9	4.4	2.3
平均	4.0	4.4	2.6

- 質問 7： 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
- 質問 8： 教員の授業時間遵守
- 質問 9： 教員の話し方
- 質問10： 教材・機器・板書等の効果的な使用
- 質問11： 教員の説明のわかり易さ
- 質問12： 教員の授業環境に対する配慮（私語の注意等）
- 質問13： 質問機会の確保と質問への適切な対応
- 質問14： 学生の理解度の確認と授業への反映
- 質問15： （自分は）授業を理解できたと思うか
- 質問16： 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
- 質問17： 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.4
質問19	4.1
質問20	3.6
質問21	3.9
質問22	4.4
質問23	4.4
平均	4.1

- 質問18： （自分は）授業に真面目に取り組んだと思うか
- 質問19： 授業内容や到達目標を理解して受講したか
- 質問20： 欠席回数（0回→5ポイント、1回→4、2回→3…）
- 質問21： 授業の予習・復習をおこなったか
- 質問22： レポート・課題等に積極的に取り組んだか
- 質問23： 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学 部 名	学 科 名	担当者名	科 目 名	履修者数
文学部	現代日本文化学科	常吉幸子	日本文学概論	23

2017年度前期授業評価アンケート集計結果： 教員による分析・評価と 2018年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

この講義は、全回 PPT で作成してある。見直し、修正は常にあるとしても。細かい修正すべき点はあるとしても、どこから見ても、なかなかよくできた講義である。

企画広報課は、授業評価の「平均」を今回は添付してきた。どうやらこの講義は、平均以下の評価しか受けていないらしい。驚きだ。ただ、抜本的に変更したりして、良くなるとは限らない。比較して劣等感を抱け、という意図でつけてきたのかもしれないが、それはちょっと無理である。残念ながら。

われわれは、力の及ぶ範囲で、ベストを尽くすしかない。この講義はほとんどベストに近いものだ、とのみ申し上げておきたい。

II. 2018年度に向けての取り組み

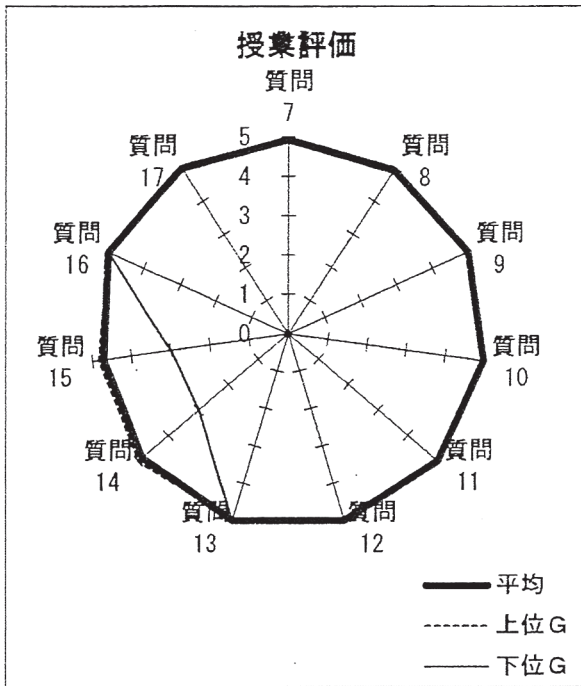
2018年度担当予定科目名： 日本文学概論

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

次年度も、この内容でベストを尽くしたい。文学を学ぶことについての基礎的概念と知識、さらに、ざっと俯瞰したところの、文学史などが、自然と理解できるように設計されている。文学を学ぶ学生が、とくに国語科教員をめざす学生らが、知らないと困ることだ。

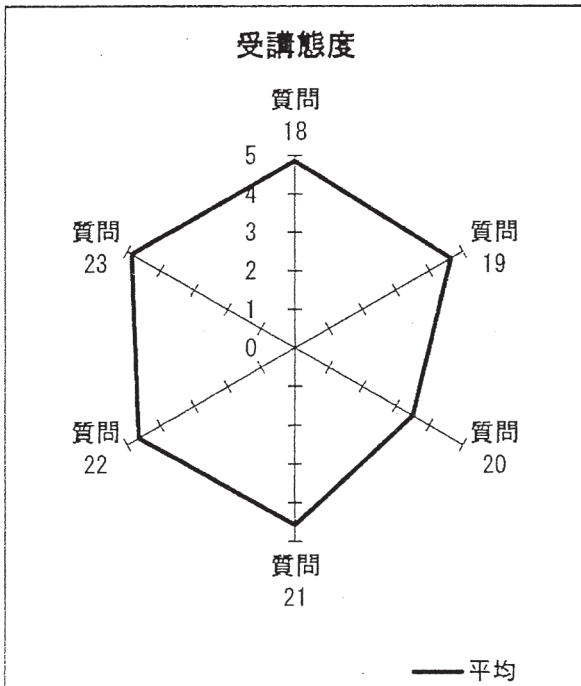
科目コード 231 (2017年度 前期)

文学部 現代日本文化学科 渡辺 誠治 日本語音声学



質問項目	平均	上位G	下位G
質問 7	4.9	4.9	5.0
質問 8	4.9	4.9	5.0
質問 9	5.0	5.0	5.0
質問10	5.0	5.0	5.0
質問11	5.0	5.0	5.0
質問12	5.0	5.0	5.0
質問13	5.0	5.0	5.0
質問14	4.9	5.0	3.0
質問15	4.7	4.8	3.0
質問16	5.0	5.0	5.0
質問17	5.0	5.0	5.0
平均	4.9	5.0	4.6

- 質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
- 質問 8 : 教員の授業時間遵守
- 質問 9 : 教員の話し方
- 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
- 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
- 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮 (私語の注意等)
- 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
- 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
- 質問15 : (自分は) 授業を理解できたと思うか
- 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
- 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.9
質問19	4.6
質問20	3.5
質問21	4.6
質問22	4.6
質問23	4.9
平均	4.5

- 質問18 : (自分は) 授業に真面目に取り組んだと思うか
- 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
- 質問20 : 欠席回数 (0回→5ポイント、1回→4、2回→3…)
- 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
- 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
- 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学 部 名	学 科 名	担当者名	科 目 名	履修者数
文学部	現代日本文化学科	渡辺 誠治	日本語音声学	30

2017年度前期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と2018年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

この授業では日本語の音声についての概要を理解し一定の分析ができるために必要な音声に関する基本的な概念を幅広く紹介した。音声に関する基本概念は理系的な印象もあるので学生にとっては取っつきにくい面も多かったと思うが、授業に対する評価ポイントは高かった。ポイントの高さをどう評価すべきか難しいところだが、上位層と下位層の評価との間にあまり差がないのは専門性という点で課題があることを示唆している。

この授業は今年度からの担当であり、PPTの準備等まだ完成していない点が多々ある。今年度の休暇期間中に準備を深めたい。

II. 2018年度に向けての取り組み

2018年度担当予定科目名：日本語音声学

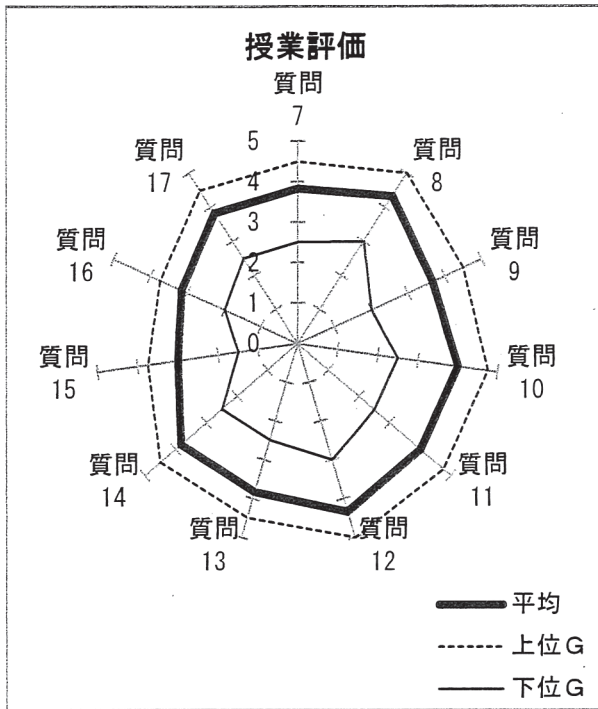
(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

興味を引きつつ専門的概念を導入できた点はよかったが、概念の整理整頓の余地はまだまだある。概念の整理と、その教材化に取り組みたい。

また、概念（理論）を説明するための、身近な用例の収集に努め、興味を喚起しつつ、その背後にある規則性や説明のための概念の理解を促進するよう工夫したい。

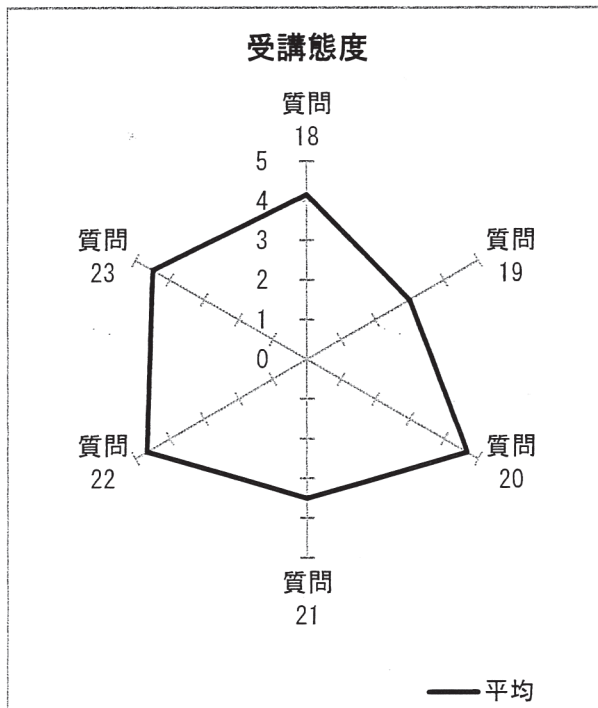
科目コード 235 (2017年度 前期)

文学部 現代日本文化学科 荒木 龍太郎 中国古典



質問項目	平均	上位G	下位G
質問 7	3.8	4.5	2.5
質問 8	4.3	5.0	3.0
質問 9	3.7	4.5	2.0
質問10	4.0	4.8	2.5
質問11	4.0	4.8	2.5
質問12	4.3	5.0	3.0
質問13	3.8	4.5	2.5
質問14	3.8	4.5	2.5
質問15	3.0	3.8	1.5
質問16	3.2	3.8	2.0
質問17	3.8	4.5	2.5
平均	3.8	4.5	2.4

- 質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
- 質問 8 : 教員の授業時間遵守
- 質問 9 : 教員の話し方
- 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
- 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
- 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮 (私語の注意等)
- 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
- 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
- 質問15 : (自分は) 授業を理解できたと思うか
- 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
- 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.2
質問19	3.0
質問20	4.7
質問21	3.5
質問22	4.7
質問23	4.5
平均	4.1

- 質問18 : (自分は) 授業に真面目に取り組んだと思うか
- 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
- 質問20 : 欠席回数 (0回→5ポイント、1回→4、2回→3…)
- 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
- 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
- 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学 部 名	学 科 名	担当者名	科 目 名	履修者数
文学部	現代日本文化学 科	荒木龍太郎	中国古典	6

2017年度前期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と2018年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

学生の受講態度は良好であるにも関わらず、授業の理解が不十分であった。

この原因は、授業では多くの内容を講義するために資料解読は課題学習にして、授業を早く進めた結果、消化不良が生じたと考えられる。

また、そのことが学生の興味・関心・意欲の低下をもたらしたと考えられる。

II. 2018年度に向けての取り組み

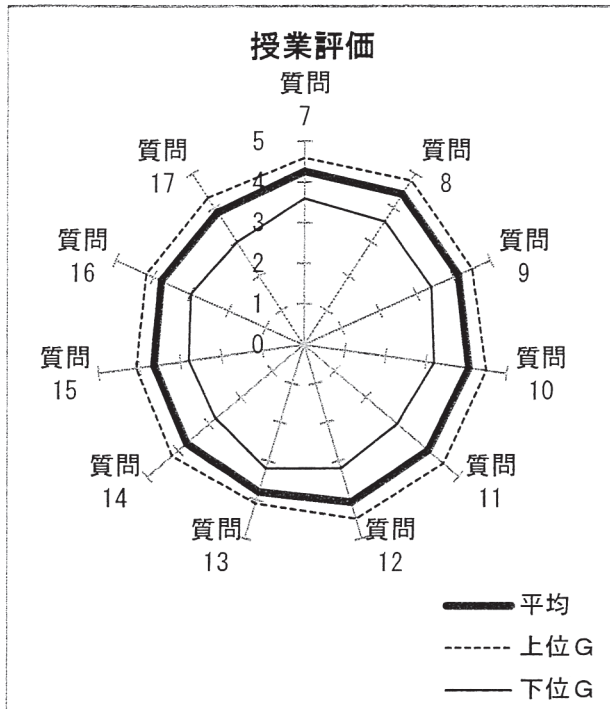
2018年度担当予定科目名： 中国古典

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

- ・時間は限られているので教材・内容を精選して進めていきたい。
- ・また、課題の提出と評価方法については、改善を試みたい。例えば課題提出レポートを丁寧に添削して返却することなど。

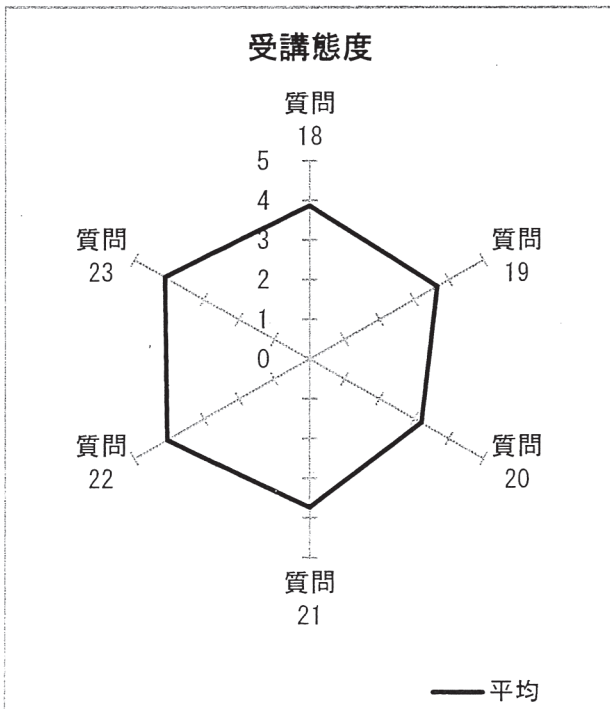
科目コード 236 (2017年度 前期)

文学部 現代日本文化学科 荒木 龍太郎 中国文学講義



質問項目	平均	上位G	下位G
質問 7	4.3	4.6	3.6
質問 8	4.4	4.8	3.6
質問 9	4.1	4.5	3.4
質問10	4.1	4.5	3.2
質問11	4.0	4.5	3.0
質問12	4.1	4.5	3.2
質問13	3.8	4.1	3.2
質問14	3.7	4.2	2.8
質問15	3.7	4.1	2.8
質問16	3.8	4.2	3.0
質問17	3.9	4.3	3.0
平均	4.0	4.4	3.2

- 質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
- 質問 8 : 教員の授業時間遵守
- 質問 9 : 教員の話し方
- 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
- 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
- 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮(私語の注意等)
- 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
- 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
- 質問15 : (自分は) 授業を理解できたと思うか
- 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
- 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	3.9
質問19	3.7
質問20	3.2
質問21	3.7
質問22	4.1
質問23	4.1
平均	3.8

- 質問18 : (自分は) 授業に真面目に取り組んだと思うか
- 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
- 質問20 : 欠席回数(0回→5ポイント、1回→4、2回→3…)
- 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
- 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
- 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学 部 名	学 科 名	担当者名	科 目 名	履修者数
文学部	現代日本文化学科	荒木龍太郎	中国文学講義	15

2017年度前期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と2018年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

本学期は、学生の理解度に留意して説明に時間をとって講義を進めた。しかしながら学生の理解・興味・関心・意欲は想定を下回った。

この原因は、講義内容の量が多いということであろう。その結果、多くの内容を急いで進めることになり、学生は十分に定着ししれなかった。

また、「古典」、しかも「外国文学」の内容であるので、日本文学・日本文化との関係を意識して講義に織り込んだが不十分であった。

II. 2018年度に向けての取り組み

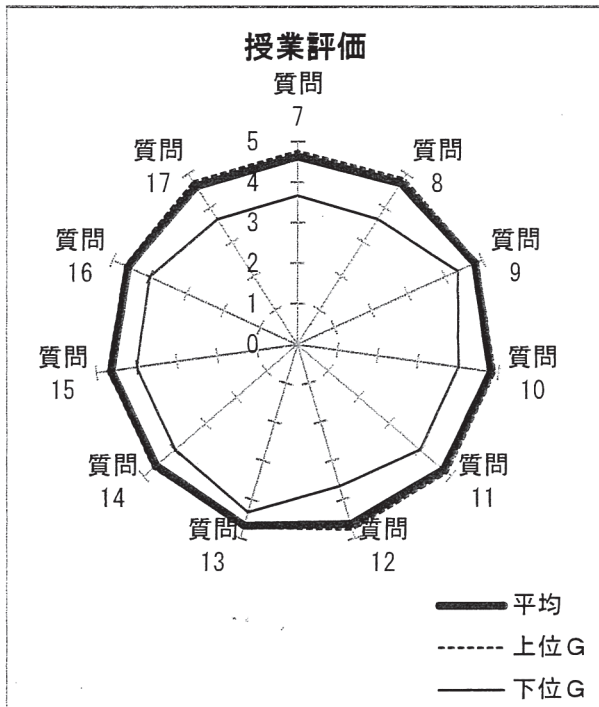
2018年度担当予定科目名： 中国文学講義

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

- ・2単位の限られて時間なので、時代を絞って丁寧な説明を心がけたいと考えている。
- ・学生の関心・意欲を引き出すために映像資料の利用を試みたい。

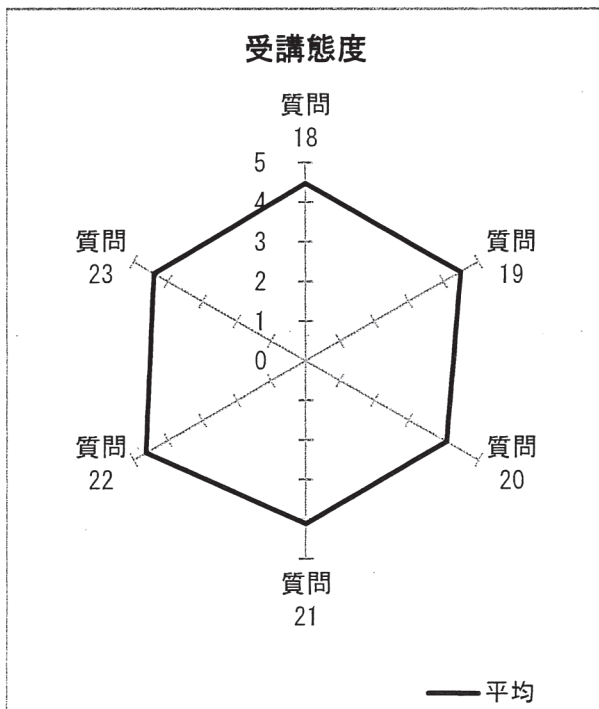
科目コード 240 (2017年度 前期)

文学部 現代日本文化学科 田中 俊廣 近現代文学講義 I



質問項目	平均	上位G	下位G
質問 7	4.6	4.8	3.7
質問 8	4.7	4.9	3.7
質問 9	4.8	4.9	4.3
質問10	4.8	4.9	4.0
質問11	4.8	4.9	4.0
質問12	4.6	4.8	3.7
質問13	4.7	4.7	4.3
質問14	4.6	4.7	4.0
質問15	4.6	4.7	4.0
質問16	4.6	4.7	4.0
質問17	4.6	4.8	3.7
平均	4.7	4.8	3.9

- 質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
- 質問 8 : 教員の授業時間遵守
- 質問 9 : 教員の話し方
- 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
- 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
- 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮 (私語の注意等)
- 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
- 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
- 質問15 : (自分は) 授業を理解できたと思うか
- 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
- 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.5
質問19	4.5
質問20	4.1
質問21	4.1
質問22	4.6
質問23	4.4
平均	4.4

- 質問18 : (自分は) 授業に真面目に取り組んだと思うか
- 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
- 質問20 : 欠席回数 (0回→5ポイント、1回→4、2回→3…)
- 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
- 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
- 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学 部 名	学 科 名	担当者名	科 目 名	履修者数
文 学 部	現代日本文化学科	田中 俊廣	近現代文学講義 I	29

2017年度前期授業評価アンケート集計結果： 教員による分析・評価と2018年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

近現代文学の主要なモチーフとして、「不安の文学」が考えられる。夏目漱石、芥川龍之介、太宰治を主に取り上げてきた。明治、大正、昭和とそれぞれ時代を代表する作家であり、映画や作家紹介の映像なども利用することによって構造的に理解できるように工夫した。

導入で、吉田修一の「悪人」を映画とテキストで紹介。まさに現代とアイデンティティーを問うのに優れた作品である。学生は、ある程度興味を持ち、そのエッセンスは理解してくれたのではないかと。

II. 2018年度に向けての取り組み

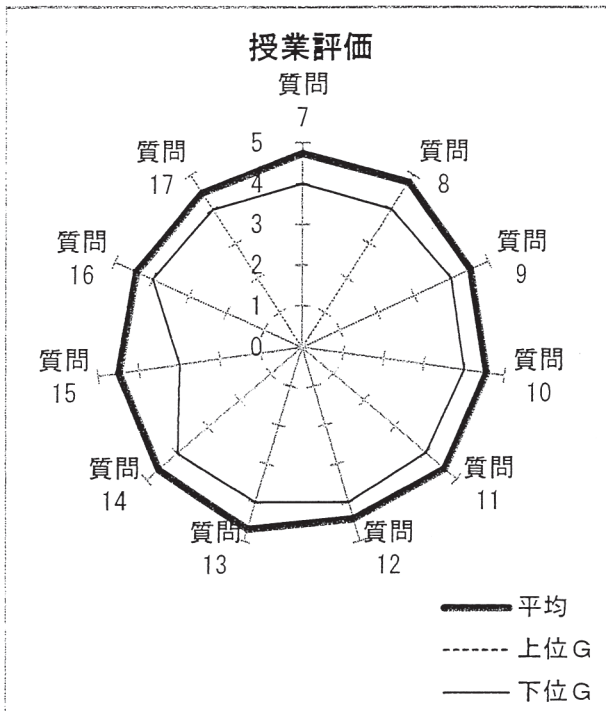
2018年度担当予定科目名： 近現代文学講義 I

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

最後に三島由紀夫も取りあげる予定であったが、時間が不足し、触れることができなかった。前三者の時間配分を考えなければならない。それから、短編はプリントで授業中に読むことができるが、長編はどれだけ予習・復習で読んでいるかが不安でもある。

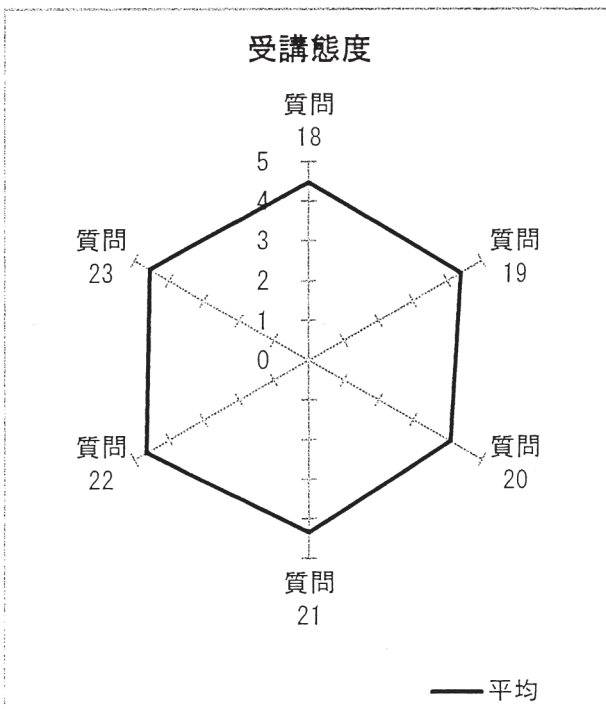
科目コード 245 (2017年度 前期)

文学部 現代日本文化学科 田浦 知子 情報サービス演習 I



質問項目	平均	上位G	下位G
質問 7	4.7	4.8	4.0
質問 8	4.8	4.8	4.0
質問 9	4.5	4.5	4.0
質問10	4.6	4.6	4.0
質問11	4.6	4.6	4.0
質問12	4.4	4.5	4.0
質問13	4.7	4.7	4.0
質問14	4.6	4.6	4.0
質問15	4.5	4.6	3.0
質問16	4.4	4.5	4.0
質問17	4.5	4.5	4.0
平均	4.6	4.6	3.9

- 質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
- 質問 8 : 教員の授業時間遵守
- 質問 9 : 教員の話し方
- 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
- 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
- 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮 (私語の注意等)
- 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
- 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
- 質問15 : (自分は) 授業を理解できたと思うか
- 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
- 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.5
質問19	4.4
質問20	4.1
質問21	4.3
質問22	4.7
質問23	4.6
平均	4.4

- 質問18 : (自分は) 授業に真面目に取り組んだと思うか
- 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
- 質問20 : 欠席回数 (0回→5ポイント、1回→4、2回→3…)
- 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
- 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
- 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学 部 名	学 科 名	担当者名	科 目 名	履修者数
文学部	現代日本文化	田浦 知子	情報サービス演習 1	28

2017 年度前期授業評価アンケート集計結果 : 教員による分析・評価と 2018 年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

授業の理解を深めることができなかった。

演習を中心に授業を進行したので、講義の部分で躓くと演習が困難になったのではないかと思います。

II. 2018 年度に向けての取り組み

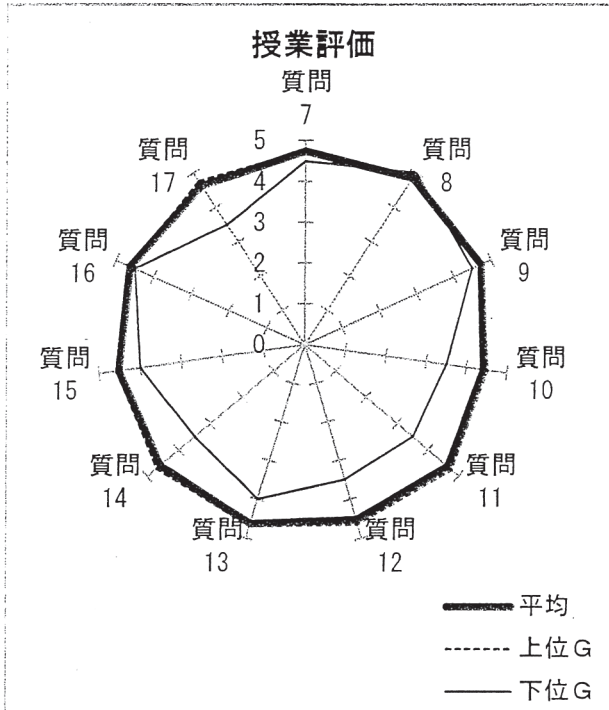
2018 年度担当予定科目名 : 情報サービス演習 I

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

個々の分野について説明の部分をふやしたい。

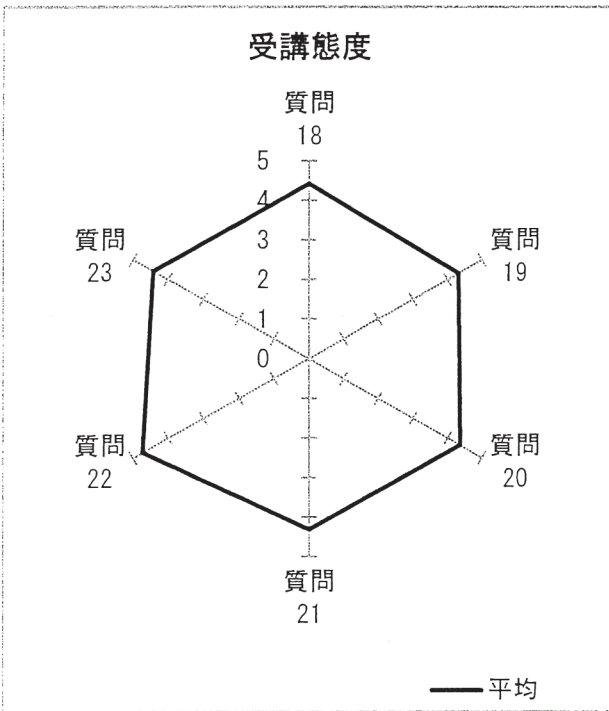
科目コード 246 (2017年度 前期)

文学部 現代日本文化学科 田浦 知子 図書館サービス概論



質問項目	平均	上位G	下位G
質問 7	4.7	4.8	4.5
質問 8	4.8	4.8	5.0
質問 9	4.7	4.8	4.5
質問10	4.4	4.5	3.5
質問11	4.6	4.8	3.5
質問12	4.5	4.6	3.5
質問13	4.6	4.7	4.0
質問14	4.6	4.7	3.5
質問15	4.5	4.6	4.0
質問16	4.6	4.6	4.5
質問17	4.6	4.8	3.5
平均	4.6	4.7	4.0

- 質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
- 質問 8 : 教員の授業時間遵守
- 質問 9 : 教員の話し方
- 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
- 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
- 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮 (私語の注意等)
- 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
- 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
- 質問15 : (自分は) 授業を理解できたと思うか
- 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
- 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.4
質問19	4.3
質問20	4.4
質問21	4.3
質問22	4.7
質問23	4.4
平均	4.4

- 質問18 : (自分は) 授業に真面目に取り組んだと思うか
- 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
- 質問20 : 欠席回数 (0回→5ポイント、1回→4、2回→3…)
- 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
- 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
- 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学 部 名	学 科 名	担当者名	科 目 名	履修者数
文学部	現代日本文化	田浦 知子	図書館サービス概論	24

2017年度前期授業評価アンケート集計結果： 教員による分析・評価と2018年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

実在の図書館のサービスを中心に授業を行ったが うまく噛み合わなかったように思う。

II. 2018年度に向けての取り組み

2018年度担当予定科目名： 図書館サービス概論

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

理論と実際の部分の説明を再考したい。